

水曜コラム+

## 日銀いよ金融教室 第120回：「はじめまして」

2020年8月12日（水）（愛媛新聞 E4 編集係）

はじめまして

このたび、第40代日本銀行松山支店長に就任しました小山浩史（こやまこうじ）です。前任の堂野より引き続き、本コラムを担当させていただくこととなりました。よろしくお願ひします。

まずは自己紹介を。私は昭和44年に千葉県で生まれましたが、故郷といえば、幼稚園から高校まで過ごした金沢です。ただ、大学は神戸、実家は奈良、両親の出身地は長野県、本籍は静岡県と、かなりハイブリッドです。日本銀行に入行後は、東京のほか、北九州、大阪、香港で勤務しています。

そんな私ですが、残念ながら、当地とは今回までご縁がありませんでした。しかし、東京を離れる前、当地をご存じの全ての方から、良いところと聞き、着任が楽しみになりました。風光明媚で、文化が香り、食のおいしい当地を、これから堪能したいと思います。感染症拡大の折から、十分注意が必要ですが。

ところで、私が日本銀行に入行したのは、バブル崩壊が始まった平成4年。以降30年近く勤務しています。この間、主に調査や統計の業務を担当してきました。政策の基礎となるのは正しい現状認識と、それに基づく将来予測です。そのためには調査が重要なのですが、基本は、統計を押さえて、理論的に得られるストーリーを想定すること。ただ、それだけで判断するのは危険です。実際に経済を動かしている方々のご意見を伺い、補強する。考えていたストーリーと違うようであれば、さらに他のご意見を聞き進める、あるいは理論や統計を改めて見直す...などと、行きつ戻りつしながら調査を進めていきます。この点、日本銀行は、日々、日本全国、世界各地で多くの方々のご意見に耳を傾けながら、調査を行うところに大きな特徴があるシンクタンクでもあります。当地でも、みなさまのご意見を拝聴しに参りますので、実際の経済で起こっている様々なことを、お教え願えれば幸いです。

当地に着任する直前の2年間は、一般広報を担当しました。ホームページやSNSでの情報発信、広報誌の作成・頒布、本店見学、小中学生向けや大学生向けのイベント開催、各種照会対応や情報公開など、金融界や経済界等とは別の、まさに一般の方々と毎日接触

する部署です。お堅いとみられがちな日本銀行で、いかに柔軟に対処できるかが求められました。そうした姿勢は、当地でも大切にしたいと思います。

ここで、私が本店で最後に携わった仕事の宣伝を一つ。日本銀行本店本館は、明治29年に完工した国の重要文化財。地下金庫や旧総裁室など、見所が多い人気の観光スポットです。このところ免震化工事のため見学は制限されていたのですが、工事が完了し、いよいよ全面再開の準備完了！ と、そのタイミングでの感染症拡大。残念ながら全面再開どころか、見学そのものが中止されています。そこで、この機にオンライン見学のページ「おうちで、にちぎん」(URL : <https://www.boj.or.jp/announcements/education/ouchi.htm/>) を立ち上げました。360度動画や3D・VR映像が、誰でもいつでもどこでも、お楽しみいただけます。ぜひご覧ください。

日本銀行松山支店は、日本銀行券に関する仕事や、国庫・国債周りの仕事でも、みなさまのお世話になっています。私自身、これから当地のお役に立てるよう頑張りますので、支店ともども、お引き立ていただけますよう、よろしく申し上げます。(日本銀行松山支店長・小山浩史)